

2026年5月14日
セイコーエプソン株式会社

長野県塩尻市の小学校で、プリンターを活用した国際交流プログラムを実証

セイコーエプソン株式会社（以下 エプソン）は、塩尻市教育委員会ならびに同市内小学校、ALT 派遣事業者であるオフィスグローバルサポート株式会社と連携し、プリンターを活用した国際交流プログラムを塩尻市内の小学校（以下 協力校）にて実施しました。

本プログラムでは、海外とのオンライン交流に紙を介したやり取りを組み合わせることで、児童がより実践的に英語を活用できる交流の実現を目指しました。学校現場における受容性および継続的な運用の可能性について検証した結果、授業内外にわたり交流が継続しやすく、学校現場でも無理なく運用できることを確認しました。



国際交流プログラムのような
(オンライン交流、プリンターを活用した手紙や作品のやり取り)

■ 実施概要

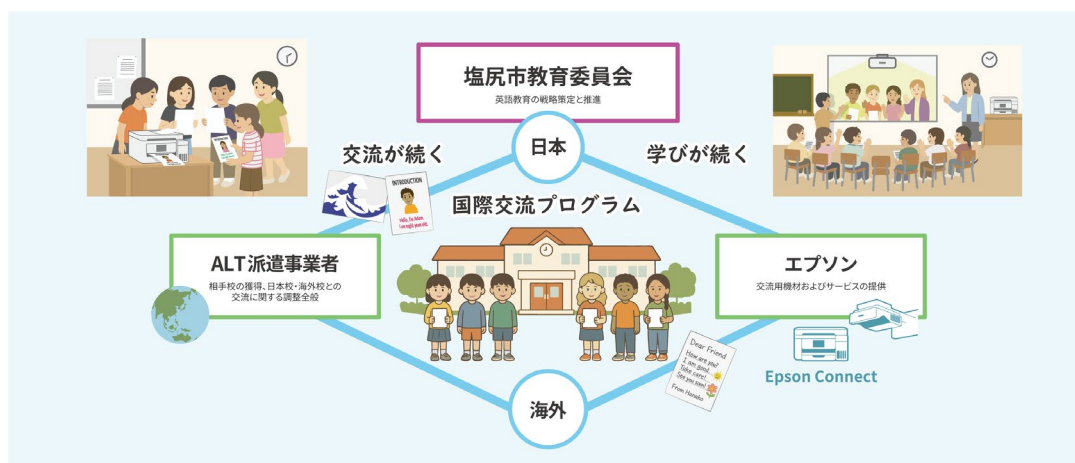
背景：

協力校の教員からは、海外を身近に感じながら、「実在する相手」と英語でやり取りする体験が、相手を意識したコミュニケーションや異文化理解、英語学習意欲の向上につながることへの期待が寄せられています。こうした活動は、子どもたちが自ら問いを立てて学ぶ「探究的な学び」の機会としても捉えられています。また、ALT 派遣事業者においては、より価値の高い国際交流プログラムの提供が求められており、“オンライン交流”と“手紙・作品交換”を組み合わせた本プログラムの方法は、関心の高い取り組みでした。

実施内容：

- ・ 塩尻市内 6 校の小学校と海外交流校 4 校（アジア、オセアニア、欧州の国・地域）にプリンターを設置し、2025 年 9 月～2026 年 3 月にかけて本プログラムの実証を行いました。
- ・ 日本と海外交流校の児童は Epson Connect*を用いて手紙や自己紹介を送り合ったり、手元のプリントを画面越しで見せ合ったりリアルタイムの交流を行いました。授業外の時間にも手書きの手紙や絵、ワークシートを相互に送り合い、返信を伴うやり取りが循環することで、日本と海外で交流が継続する環境を整えました。
- ・ プログラムの中で日本の児童は、海外交流校の児童から届いた手紙を、翻訳ツール等を活用して読んだり、知らない言葉を調べたりしながら、英語や相手国・地域の文化を主体的に学ぶ姿が見られました。

*インターネットを通じてプリンターとスキャナーを結び、遠隔で紙を介したコミュニケーションができるクラウドサービス



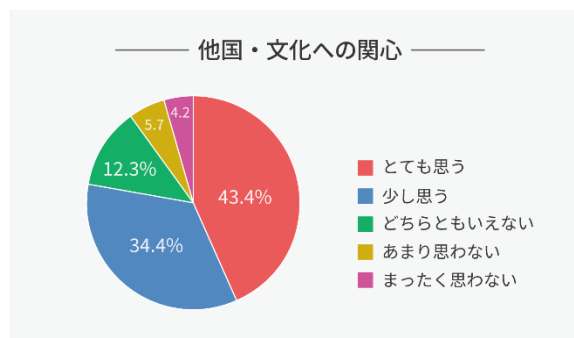
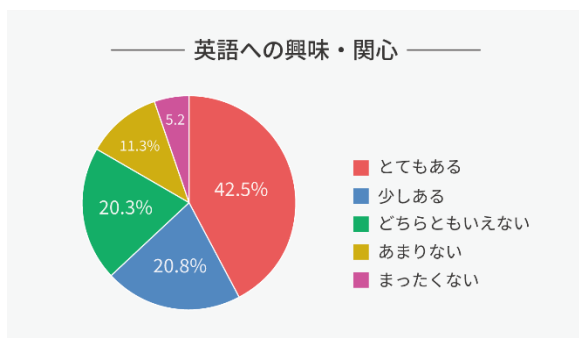
■ 実証結果

協力校の児童を対象に、交流の前後でアンケートを実施したところ、以下のような変化が確認できました。

＜児童アンケートの結果＞

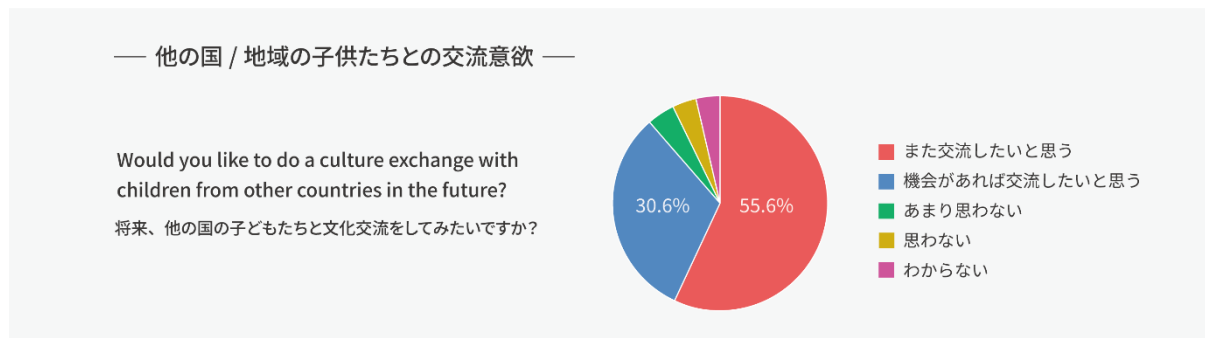
- ・ 国内協力校児童（計 322 人）

自己紹介を入口にしたことで、好きなこと・学校生活・食べ物・遊びなど身近な話題で交流が深まり、相手国／地域の文化や生活への関心が高まりました。また、「英語で交流する体験」そのものへの強い興味も見られました。



・ 海外交流校児童（計 308 人）

「もっとつながりたい」「一緒に活動したい」という意欲が高く、交流への満足度も総じて高い結果となりました。



<教員の声>

- ・ 手紙や自己紹介を通じた交流は、子ども同士が英語を使って関わり合い、相手を意識したコミュニケーションや学習意欲の向上につながっている。
- ・ プリンターを活用したことで、以前は相手校に郵送で送っていた作成物が時間の制約なく手軽に送られて手間が省ける、といった運用面のメリットがある。
- ・ 授業外の教員同士のコミュニケーションや連絡手段としても活用できる。

<本プログラムを通じて見えてきたプリンター活用のポイント>

1. 意欲を高めるツール

- ・ 相手に「どう伝えるか」を考え、伝わったときの喜びを体験できる。
- ・ 手紙やイラスト・写真などが形として残ることで、相手が身近に感じられ、交流が実感しやすい。

2. 続けられる仕組み

- ・ 英語を「学ぶ対象」から「相手に伝えるための手段」として使うことで、学習意欲の継続につながる。
- ・ 手紙や絵の双方向の継続的なやり取りを通じて、「読んでみたい」「書いてみたい」という気持ちが高まり、相手国・地域への関心や交流意欲が続く。
- ・ コメントシートや共同制作物などを取り入れることで、授業後や授業外でも交流が続く。

3. 授業運営と教員間の連携を支えるインフラ

- ・ 映像が不安定な場合でも同じプリントを共有でき、指さしなどによる意思疎通を補完できる。
- ・ 紙を入れてすぐ送信できる簡単さと、子どもでも扱える操作性が、教員の負担軽減につながる。
- ・ 放課後の送信と翌朝の受信が可能で、時差のある海外校との連絡手段としても活用できる。



■ 今後の展開

本プログラムは特別な設備を必要とせず、学校にあるプリンターやプロジェクターを活用して実施できます。今後はプログラムの改善と品質向上を進めながら、参加校以外への展開も視野に、より多くの子どもたちに「英語で実際に対話する機会」や「質の高い探求的な学び」を届けられるよう取り組みを広げていきます。また、教育現場のニーズやALT派遣事業者が抱える課題に寄り添いながら、継続的に実施可能な国際交流モデルの構築を目指します。

<参考>

Epson Connect について

<https://openinnovation.epson.com/epson-connect/>

以上